

第5回サポーターズミーティングの開催結果について

1. 日時：令和3年8月26日(木) 19時00分～20時30分
2. 場所：Web会議による開催
3. 議題：
 - (1) 県庁舎跡地整備基本構想の検討状況について
 - (2) 広場等の暫定供用について
 - (3) その他報告事項
4. 出席者（敬称略）：

名称	所属等
荒木 ゆい	江戸町自治会青年部 部長
江口 忠宏	DEJIMA BASE 代表
齊藤 秀男	地域おこし協力隊（長崎市琴海地区）
高浪 高彰	長崎雑貨 たてまつる
森 恭平	江戸町自治会青年部 役員
安元 哲男	アートクェイク代表
吉持 和美	合同会社 wakuwa プランニング プロジェクトコンダクター
渡辺 敦子	合同会社 wakuwa プランニング プロジェクトコンダクター
山下 裕子	長崎県県庁舎跡地活用アドバイザー
長崎市	長崎市土木部

5. 開催結果

(1) 県庁舎跡地整備基本構想の検討状況について

現在の検討状況について報告するとともに、今後の検討内容についても随時共有していくことを確認。

(2) 広場等の暫定供用について

【概要】

令和4年度から予定している広場等の暫定供用について、実際の利用状況を検証しながらその後の整備を検討。先ず県において整地や跡地内に残存する一部の基礎の撤去などを行い、そのうえで暫定供用期間中に必要となる整備を検討することなど、暫定供用の考え方や進め方についてご意見をいただいた。

また、暫定供用時を含め、今後の持続的な賑わいにつなげていくために、整備のあり方や取り組みの具体化を検討する仕組みづくり等についてご意見をいただいた。

【主な意見等】

- トライアルをしながら（利用状況等を検証しながら）整備をすすめるのは良いと思う。トライアルしていきながら計画の方向性を考えていくことが大事。
- トライアルを進めるにあたっては、何のためにするのかを明確にするためにも、評価する基準など一定のルールを設けるべき。
- サポートズミーティングの今後の賑わいづくりへの関わり方について考える必要がある。
- 誰が中心になって進めていくか、ルールを決めておいたほうが良い。暫定供用の時点で仕切る人がいない状態にならないかとの懸念があり、動かすリーダーが必要と感じる。具体的な賑わいづくりについても、使い方のルールはサポートズで話したほうが良い。
- 数多くの視点を持ちながらやっていく事も大事。例えば、テーマを設定して、大学などで研究してもらうなど、関わってもらう主体を拡げていく事も必要。
- 今の状況下においては特に、「にぎわい」という言葉を「因数分解」しておく必要がある。ここで目指している「にぎわい」とは、人を集める事だけではなく、多様な人の姿や多様なアクティビティがあること、ひいては

私たちの日常が豊かになっていくということだと思う。今の時代、賑わいやイベントというものに対してネガティブな意見もあるが、距離を保ち屋外のスペースですることであれば悪い事ではないはず。こうした点も踏まえて、ここをどういう場所にしていきたいか、しっかり言語化する必要がある。

- 新しい産業をつくるとか、発祥の地である事を活かしたテーマ設定など、人を集めるためのブランディングにも留意する必要がある。
- いまは人が集まるというよりも、この場所に対して愛着を持つ人たち、ファンがどれだけ増えていくのかが「にぎわい」であると思う。そういったファンを増やす仕組みを作っていくとすると、すでに長崎に多く存在するアクター・セクターをまとめる触媒的な機能が必要。そういうまとめ役がコーディネーターとなって、周りの人たちを巻き込みながら今後の目標を見据えながらやっていく形が必要と思う。
- 何かをやりたい、関わりたいと思う人たちが気軽に関わられるようなプラットフォームを作ることが先決ではないかと思う。
- （暫定供用するオープンスペースの使い方としては）掘り所となるものがあつたほうが使いやすい。オープンスペースといっても、一気に全部を使ってもらうのではなく、人が良く通る場所とか、あまり通らない奥のほうとかで、小さく始めるといい。また、広場の中に区切りを設けて小さな空間をつくると、パーソナルスペースとなって使いやすい。また、熊本の花畑広場のように、暫定供用の期間に屋根の素材を数パターン試すなど、途中期間だからこそできる試行的な取り組みなども検討してはどうか。
- 人の動きを踏まえたうえで設計につなげていく必要があり、そのための仕掛け、例えば移動販売車とか、テーブルやイスを置くとかしてみるだけでも、見えてくるものがある。

（３）その他報告事項について

【概要】

実施済みの活動等（自治会との連携や第二別館跡地の貸付状況、石垣側樹木の伐採、元懇話会委員との意見交換）について報告。これまでの提案への対応などについて意見があつた。

【主な意見等】

- 暫定利用の間だけ、例えばサポーターズミーティングの皆さんでコンセプトやテーマを決めて、これに沿ったテーマで活用してみたい人は、定期的に関催するサポーターズミーティングの中で提案してもらい、

サポーターズメンバーがアドバイス等を行い、チャレンジしやすい場を作っていくといったことを検討できないか。ひとつのアイデアとして提案する。

(4) 今後の進め方について

- ミニミーティングの開催を含め、小人数での打ち合わせや個別の訪問により意見交換を実施。
- 「にぎわいの因数分解」について議論を深める。
- 関心のある人が気軽に関わることができるプラットフォームの具体化を進める。

以 上